

教育学部の教育理念

「豊かな人間性と教育にかかわる高い専門性を備えた、社会に貢献できる人材を育成する」

教育学部では、人が社会の中で意欲を持って生活することや、社会のよりよい在り方について、教育に携わる立場から真剣に取り組む人材を育成することを目指している。「教育」は人との関わりの中で展開するものであり、教育者の姿勢が少なからず影響するものである。ゆえに、教育に携わる人材として豊かな人間性を持って欲しい、という思いがある。また、学生個々が社会を構成する一員となることを踏まえ、社会の中で一人の人間として豊かに生きていくことのできる人間として育てて欲しいという思いもあり、教育に携わる人材育成の基盤として「豊かな人間性」を置いている。

その上で、社会に生じる様々な教育的課題について、高い専門性から解決に取り組むことのできる人材を育成する。

こども教育学科

【教育理念】

豊かな人間性と理論に裏付けされた実践的な教育力を持ち、新しい時代や社会に対応できる質の高い保育士・教員を養成する。

教育学部こども教育学科では、保育士、幼稚園教諭、及び小学校教諭の養成を目指している。これからの社会を担うこどもたちが、社会の中で他者と協働しながら意欲的に生活していくことのできる人材として育つよう、教育に関わる立場から支援できる人材を育成することを使命と受け止めている。

まず、こどもが信頼を寄せることのできる「豊かな人間性」をもった人材を育成し、こどもが人一般に対して信頼を寄せ、協働することの楽しさを感じることで原点を形成する。

その上で、教育に関する理論と実践力を持ち、こどもに関わることできる力を育てる。

また、「理論に裏付けされた実践的な教育力」を育て、自らの実践について理論に基づいて省みて、自らの専門性をより高める人材育成を目指している。

更に、社会情勢・教育的課題は今後も変動するものであり、新たな課題を掌握・予測し、それに柔軟に対応する力も育成する。

【教育目標】

1. こどもの保育・教育に携わる者として、豊かな人間性と高い倫理観を養う
2. こどもの心身の発達を支えるための専門知識と技能を深く修得する
3. 理論と実践を統合し、社会の要請に応えることのできる教育力を身につける
4. 実践の場において自ら課題を見だし研究することにより、保育や教育の質を高める態度を育む

【アドミッションポリシー】

1. 保育士・教員になることを目指している人
2. 基礎学力のある人
3. 課題を発見し、探究する意欲のある人
4. 自分も他者とともに尊重し、協働して行動できる人

高等学校等においては、特定の教科に偏らず、すべての教科の基礎的な学習を通して、読解力、表現力、論理的思考力、問題解決力の基礎を修得していることを求めます。また保育士・教員は、人間性豊かであることが必要なため、課外活動にも力を注ぐ意欲を有していることが望まれます。

【カリキュラムポリシー】

1. 「豊かな人間性と高い倫理観」を育むために「基盤教育分野」を充実させる。
2. 「専門知識と技能を深く修得する」ための導入として、また「理論と実践を統合」することを促すための導入としての「専門基礎分野」をおく。
3. 「専門知識と技能を深く修得」し、「理論と実践を統合し、社会の要請に応えることのできる教育力を身につける」ために、「専門分野」を充実させる。
4. 「専門知識と技能を深く修得」することを一層深め、また「実践の場において自ら課題を見だし研究することにより、保育や教育の質を高める態度を育む」ために「専門発展分野」を設け、充実した科目配置とする。

【ディプロマポリシー】

卒業に必要な所定の単位を修得し、以下の能力や資質を身につけた学生に「教育学士」を授与する。

1. こどもの保育・教育に携わる者に必要な豊かな人間性と高い倫理観
2. こどもの心身の発達を支えるための専門知識と技能
3. 理論と実践を統合し、社会の要請に応えることのできる教育力
4. 実践の場において自ら課題を見だし研究することにより、保育や教育の質を高める態度

【取得できる免許状・資格】

1. 保育士資格
2. 幼稚園教諭一種免許状
3. 小学校教諭一種免許状
4. 中学校教諭一種免許状（理科）
5. 学校図書館司書教諭資格
6. 社会福祉主事任用資格

【履修要領】

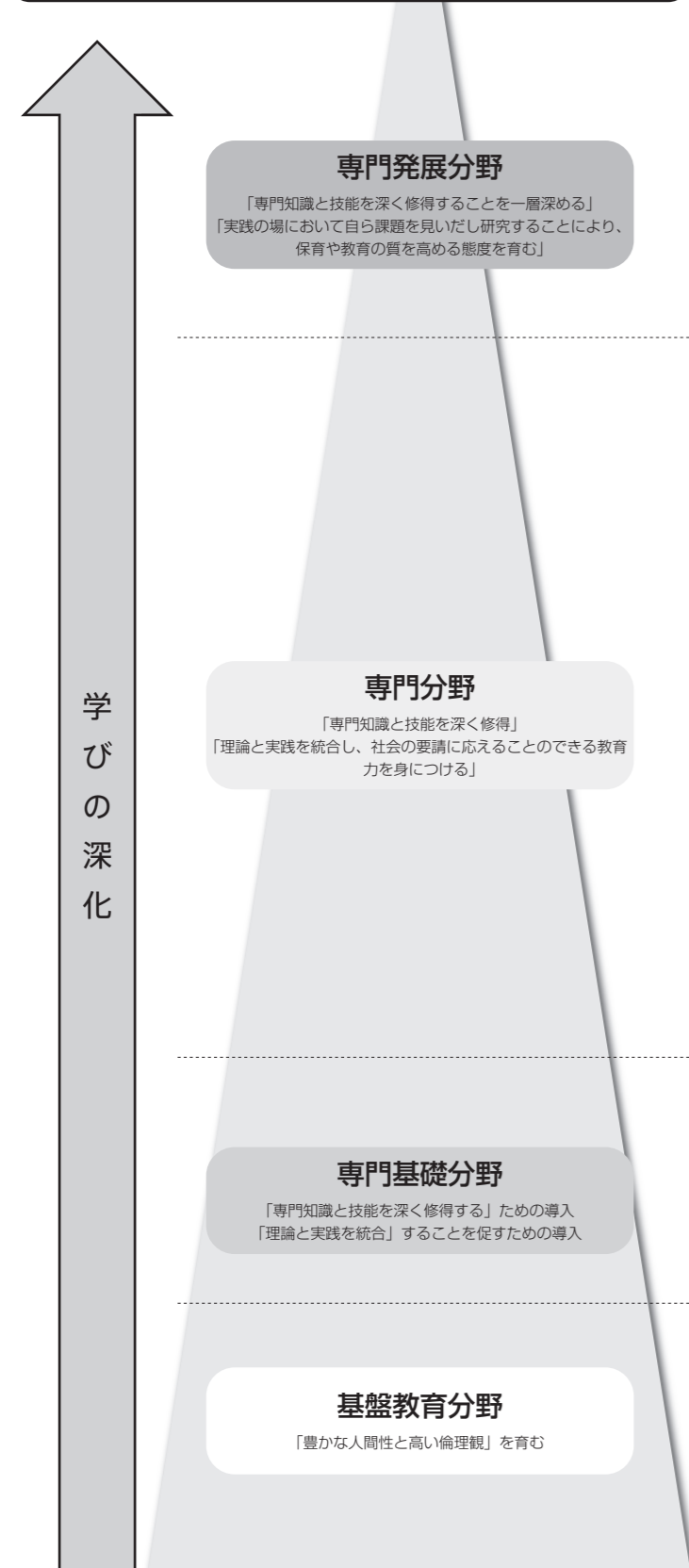
I 卒業所要単位

こども教育学科においては、本学に4年以上在学し、124単位以上を修得した者に卒業が認定され、学士の学位が授与される。124単位の内容は次のとおりである。

1. 必修科目については、基盤教育分野から3単位、専門基礎分野から10単位、専門分野から4単位、専門発展分野から4単位合計21単位を修得する。
2. 保育・幼児教育コースの選択科目については、基盤教育分野の①2単位以上、②2単位以上、専門発展分野の③6単位以上、専門分野の④10単位以上を修得するとともに、上記の①・②・③・④を含み、選択科目から103単位以上を履修する。
3. 義務教育コースの選択科目については、基盤教育分野の①2単位以上、②2単位以上、専門発展分野の③6単位以上、専門分野の⑤30単位以上を修得するとともに、上記の①・②・③・⑤を含み、選択科目から103単位以上を履修する。

神戸常盤大学 教育学部 こども教育学科 カリキュラムマップ (令和5年度) 保育・幼児教育コース

カリキュラム概念図 (カリキュラムポリシー)



こども教育学科教育理念 豊かな人間性と理論に裏付けされた実践的な教育力を持ち、新しい時代や社会に対応できる質の高い保育士・教員を養成する。

| | 1年 | | 2年 | | 3年 | | 4年 | |
|----------------|--|---------------------------------------|--|--|--|--|--|---|
| | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 |
| 専門研究 | | | | | 基礎研究Ⅰ★ 保育・教育課題研究Ⅰ | 基礎研究Ⅱ★ 保育・教育課題研究Ⅰ | 専門研究Ⅰ★ 保育・教育課題研究Ⅱ | 専門研究Ⅱ★ 教職実践演習(幼・小・中) 保育実践演習 保育・教育課題研究Ⅱ |
| 専門発展理論・実践 | | | カウンセリングの技法* | | 子どもと絵本Ⅰ 保育・教育多職種連携* | 海外研修* 子どもと絵本Ⅱ リトミックⅠ* 子どもの障害と医療* 子どもの歯と健康* | 音楽Ⅳ* リトミックⅡ* 保育・教育と医療* 多文化理解教育論* 生き物と自然の力* | 海外研修* 防災教育実践* あそびのリスクマネジメント* |
| 専門実習 | | | | | 教育実習指導(幼稚園) 保育実習Ⅰ(保育所) 保育実習指導Ⅰ | 教育実習(幼稚園) 保育実習Ⅰ(社会福祉施設) 保育実習指導Ⅰ | インターンシップB 保育実習Ⅲ 保育実習指導Ⅲ 保育実習Ⅱ 保育実習指導Ⅱ | インターンシップB |
| 保育・教育の専門的事項 | | | 野外生物学実習 子どもと造形表現▲ | 野外生物学実習 子どもと身体表現▲ 子どもと言葉▲ | サイエンス・コミュニケーション | サイエンス・コミュニケーション 子どもと音楽表現▲ | 子どもと健康▲ | 子どもと環境▲ 子どもと人間関係▲ |
| 保育・教育の内容と方法 | | 保育内容総論 | 障害児の理解と支援Ⅰ 乳児保育Ⅰ 保育内容(環境)▲ 保育内容(言葉)▲ 保育内容(健康)▲ | 障害児の理解と支援Ⅱ 乳児保育Ⅱ 社会的養護Ⅱ 保育内容(音楽表現)▲ 保育内容(造形表現)▲ 保育内容(人間関係)▲ 保育の計画と評価 | 教育方法・情報通信技術活用論★ 特別支援教育 保育指導法 | | | |
| 子どもの生活と保護者への支援 | | | 幼児理解 | | 教育相談 | 子ども家庭支援論 | 子育て支援 | |
| 子どもの心と体の理解 | | 教育心理学★ | 子どもの保健 | 子どもの理解と援助 子どもの健康と安全 | 発達心理学 保育の心理学 子どもの食と栄養Ⅰ | 子ども家庭支援の心理学 子どもの食と栄養Ⅱ | | |
| 保育・教育の理論 | | 子ども家庭福祉 保育者論 | 社会的養護Ⅰ 教育の思想と歴史 | 教育行政学 | | | | |
| 基礎研究 | 保育・教育実践演習Ⅰ★ | 保育・教育実践演習Ⅰ★ | 保育・教育実践演習Ⅱ★ | 保育・教育実践演習Ⅱ★ | | | | |
| 基礎技能 | 体育 図画工作Ⅰ 音楽Ⅰ | 図画工作Ⅱ 音楽Ⅱ | 音楽Ⅲ | | | | | |
| 基礎理論 | 社会福祉★ 保育原理★ | 教育原理★ | | | | | | |
| 創造実践科目群 | | | | | | | | |
| 人間探究科目群 | 日本国憲法 英語コミュニケーションⅠ 健康スポーツ科学Ⅰ 情報基礎 | 英語コミュニケーションⅡ 健康スポーツ科学Ⅲ 情報メディア演習 | | | 基盤教育分野のカリキュラム表を参照 (卒業必修科目と免許・資格必修科目のみを表示) | | | |
| 学びの始め科目群 | まなぶる▶ときわびとⅠ★ | まなぶる▶ときわびとⅡ★ | | | | | | |

★卒業必修 *より6単位以上選択必修 ▲より10単位以上選択必修

ディプロマポリシー

実践の場において自ら課題を見出し、研究することにより、保育の質を高める態度

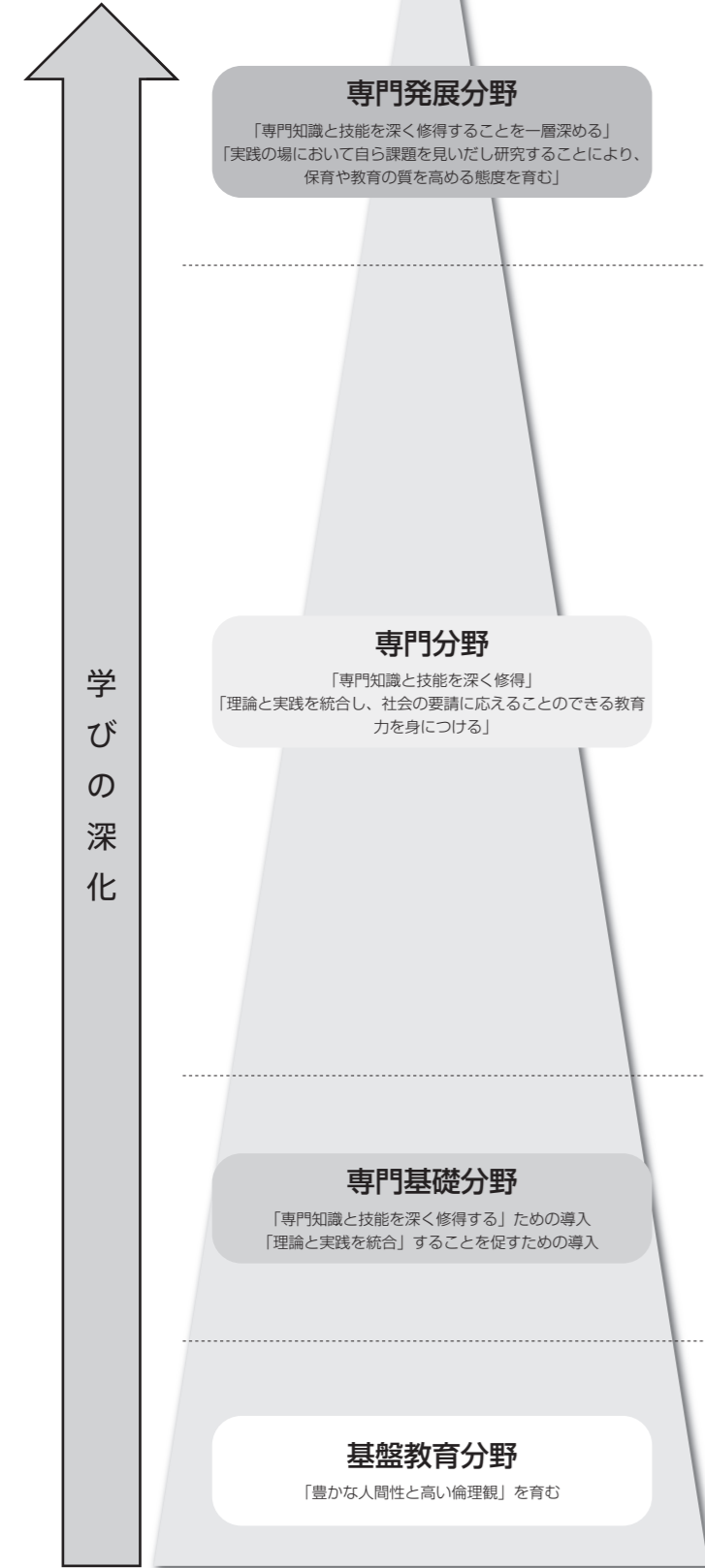
理論と実践を統合し、社会の要請に応えることのできる教育力

子どもの心身の発達を支えるための専門知識と技能

子どもの保育・教育に携わり、豊かな人間性と高い倫理観

神戸常盤大学 教育学部 こども教育学科 カリキュラムマップ (令和5年度) 義務教育コース

カリキュラム概念図
(カリキュラムポリシー)



こども教育学科教育理念 豊かな人間性と理論に裏付けされた実践的な教育力を持ち、新しい時代や社会に対応できる質の高い保育士・教員を養成する。

| | 1年 | | 2年 | | 3年 | | 4年 | |
|----------------|--|---------------------------------------|--|---|--|--|--|--|
| | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 |
| 専門研究 | | | | | 基礎研究Ⅰ★ | 基礎研究Ⅱ★ | 専門研究Ⅰ★ | 専門研究Ⅱ★ 教職実践演習(幼・小・中) |
| 専門発展理論・実践 | | | カウンセリングの技法* | | | 学校図書館とメディアの構成* 学校経営と学校図書館* 教科指導法特論Ⅰ* 海外研修* | 教科指導法特論Ⅱ* 音楽Ⅳ* 保育・教育と医療* 多文化理解教育論* 生き物と自然の力* | 情報メディアの活用* 読書と豊かな人間性* 学習指導と学校図書館* 教科指導法特論Ⅲ* 海外研修* 防災教育実践* あそびのリスクマネジメント* |
| 専門実習 | | | | | 教育実習指導(義務教育) | 教育実習(義務教育) | インターンシップB 介護等体験 | インターンシップB 介護等体験 |
| 教科の指導法 | | | 教科指導法(小中学理科)▲ | 教科指導法(中学理科)Ⅰ▲ 教科指導法(図画工作)▲ 教科指導法(音楽)▲ 教科指導法(生活)▲ | 教科指導法(中学理科)Ⅱ▲ 教科指導法(外国語)▲ 教科指導法(体育)▲ 教科指導法(家庭)▲ 教科指導法(算数)▲ 教科指導法(社会)▲ 教科指導法(国語)▲ | 教科指導法(中学理科)Ⅲ▲ | | |
| 保育・教育の専門的事項 | | 化学概論 物理学概論 | 地学概論▲ 野外生物学実習▲ 生物学概論▲ 化学実験▲ 物理学実験▲ 小学校英語▲ 生活▲ 算数▲ | 地学実験▲ 野外生物学実習▲ 生物学実験▲ 家庭▲ 理科概論▲ 社会▲ 国語▲ | | サイエンス・コミュニケーション▲ 小学校図画工作▲ | サイエンス・コミュニケーション▲ 小学校体育▲ | 地球と環境▲ 生物と環境▲ 生活と化学▲ 生活と物理▲ 小学校音楽▲ 理科実験指導法▲ 地学特論▲ 生物学特論▲ 化学特論▲ 物理学特論▲ |
| 保育・教育の内容と方法 | | | | 特別活動の指導法 | | 総合的な学習の時間の指導法 教育方法・情報通信技術活用論★ 特別支援教育 教育課程総論 | 道徳教育の理論と実践 | |
| 子どもの生活と保護者への支援 | | | | | | 生徒・進路指導論 教育相談 | | |
| 子どもの心と体の理解 | | 教育心理学★ | | | | | | |
| 保育・教育の理論 | | | 教育の思想と歴史 教職論 | 教育行政学 | | | | |
| 基礎研究 | 保育・教育実践演習Ⅰ★ | 保育・教育実践演習Ⅰ★ | 保育・教育実践演習Ⅱ★ | 保育・教育実践演習Ⅱ★ | | | | |
| 基礎実習 | | | インターンシップA | インターンシップA | | | | |
| 基礎技能 | 体育 図画工作Ⅰ 音楽Ⅰ | 図画工作Ⅱ 音楽Ⅱ | 音楽Ⅲ | | | | | |
| 基礎理論 | 社会福祉★ 保育原理★ | 教育原理★ | | | | | | |
| 創造実践科目群 | | | | | | | | |
| 人間探究科目群 | 日本国憲法 英語コミュニケーションⅠ 健康スポーツ科学Ⅰ 情報基礎 | 英語コミュニケーションⅡ 健康スポーツ科学Ⅲ 情報メディア演習 | | | 基盤教育分野のカリキュラム表を参照 (卒業必修科目と免許・資格必修科目のみを表示) | | | |
| 学びの始め科目群 | まなぶる▶ときわびとⅠ★ | まなぶる▶ときわびとⅡ★ | | | | | | |

★卒業必修 *より6単位以上選択必修 ▲より30単位以上選択必修

ディプロマ
ポリシー

実践の場において自ら課題を見出し研究することにより、保育や教育の質を高める態度

理論と実践を統合し、社会の要請に応えることのできる教育力

子どもの心身の発達を支えるための専門知識と技能

子どもの保育・教育に必要な豊かな人間性と高い倫理観

こども教育学科 カリキュラムマップ

| 教育課程 | ディプロマポリシー | | [DP1] こどもの保育・教育に携わる者に必要な豊かな人間性と高い倫理観 | [DP2] こどもの心身の発達を支えるための専門知識と技能 | [DP3] 理論と実践を統合し、社会の要請に応えることのできる教育力 | [DP4] 実践の場において自ら課題を見いだし研究することにより、保育や教育の質を高める態度 |
|----------------|---|---------------------------|--------------------------------------|-------------------------------|------------------------------------|--|
| | 学修成果 | こどもの保育・教育に必要な豊かな人間性をもっている | | | | |
| 始学科 び目 め | まなぶる | ▶とさわびと | ○ | | | |
| | まなぶる | ▶とさわびと | ○ | | | |
| 基礎教育分野 | 大学道場 | miniゼミA | ○ | | | |
| | 大学道場 | miniゼミB | ○ | | | |
| 人間探究科目群 | 情報メディア演習 | 基礎 | ○ | | | |
| | 健康スポーツ科学I | | ○ | | | |
| 基礎教育分野 | 健康スポーツ科学II | | ○ | | | |
| | 健康スポーツ科学III | | ○ | | | |
| 人間探究科目群 | アカデミックライティング | | ○ | | | |
| | コミュニケーション論 | | ○ | | | |
| 基礎教育分野 | 英語コミュニケーションI | | ○ | | | |
| | 英語コミュニケーションII | | ○ | | | |
| 人間探究科目群 | 英語Aa (Communicative English Basic) | | ○ | | | |
| | 英語Ab (Communicative English Intermediate) | | ○ | | | |
| 基礎教育分野 | 英語Ac (Communicative English Advanced) | | ○ | | | |
| | 英語B (Presentation Skills) | | ○ | | | |
| 人間探究科目群 | 英語C (Current Issues) | | ○ | | | |
| | 手話コミュニケーション | | ○ | | | |
| 基礎教育分野 | 多文化コミュニケーション | | ○ | | | |
| | いのちと共生 | | ○ | | | |
| 人間探究科目群 | 人類と地球環境 | | ○ | | | |
| | 暮らしの中の数学 | | ○ | | | |
| 基礎教育分野 | 基礎統計学 | | ○ | | | |
| | 暮らしの中の物理学 | | ○ | | | |
| 人間探究科目群 | 現代社会と化学 | | ○ | | | |
| | 現代社会と生命科学 | | ○ | | | |
| 基礎教育分野 | 人類と全農 | | ○ | | | |
| | 人類と農 | | ○ | | | |
| 人間探究科目群 | プロクラミング入門 | | ○ | | | |
| | 日本憲法 | | ○ | | | |
| 基礎教育分野 | 哲学と倫理 | | ○ | | | |
| | 生命倫理 | | ○ | | | |
| 人間探究科目群 | 芸術文化 | | ○ | | | |
| | 日本通社会 | | ○ | | | |
| 基礎教育分野 | 国際社会学 | | ○ | | | |
| | 現代社会学 | | ○ | | | |
| 人間探究科目群 | 経済学 | | ○ | | | |
| | 組織マネジメント | | ○ | | | |
| 基礎教育分野 | 人間関係論 | | ○ | | | |
| | 教育とまちづくり | | ○ | | | |
| 人間探究科目群 | 災害と国際 | | ○ | | | |
| | 科学技術論 | | ○ | | | |
| 基礎教育分野 | 地域との協働A | | ○ | | | |
| | 地域との協働B | | ○ | | | |
| 人間探究科目群 | コミュニティデザイン | | ○ | | | |
| | プロジェクトデザイン | | ○ | | | |
| 基礎教育分野 | 超と | | ○ | | | |
| | 超と | | ○ | | | |

| 専門基礎分野 | 専門 | 分野 |
|-------------|--------------|----|
| 基礎理論 | 保育原理 | ○ |
| 基礎 | 保育社会学 | ○ |
| | 音楽 | ○ |
| 基礎 | 音楽 | ○ |
| | 図画工作 | ○ |
| 基礎 | 図画工作 | ○ |
| | 体育 | ○ |
| 基礎実習 | インターンシップA | ○ |
| 基礎研究 | 保育実践演習I | ○ |
| | 保育実践演習II | ○ |
| 保育の理論 | 教育者論 | ○ |
| | 教育行政 | ○ |
| 子どもの社会学 | 教育の思想と歴史 | ○ |
| | 社会的養育 | ○ |
| 子どもの心と体の理解 | 子どもの食と栄養I | ○ |
| | 子どもの食と栄養II | ○ |
| 子どもの心と体の理解 | 子どもの健康と安全 | ○ |
| | 子どもの健康と安全 | ○ |
| 内保育・教育の | 子どもの家庭支援の心理学 | ○ |
| | 子どもの理解と援助 | ○ |
| 内容と方法 | 発達心理学 | ○ |
| | 幼児心理学 | ○ |
| 保育・教育の内容と方法 | 子育て支援 | ○ |
| | 生徒・進路指導 | ○ |
| 保育・教育の内容と方法 | 保育の計画と評価 | ○ |
| | 保育課程総論 | ○ |
| 保育・教育の内容と方法 | 保育内容指導法 | ○ |
| | 保育内容(健康) | ○ |
| 保育・教育の内容と方法 | 保育内容(言葉) | ○ |
| | 保育内容(環境) | ○ |
| 保育・教育の内容と方法 | 保育内容(人間関係) | ○ |
| | 保育内容(造形表現) | ○ |
| 保育・教育の内容と方法 | 保育内容(音楽表現) | ○ |
| | 社会的養育 | ○ |
| 保育・教育の内容と方法 | 乳児保育 | ○ |
| | 乳児保育 | ○ |

| 教育課程 | ディプロマポリシー | 【DP1】 こどもの保育・教育に携わる者に必要な豊かな人間性と高い倫理観 | 【DP2】 こどもの心身の発達を支えるための専門知識と技能 | 【DP3】 理論と実践を統合し、社会の要請に応えることのできる教育力 | 【DP4】 実践の場において自ら課題を見いだし研究することにより、保育や教育の質を高める態度 | |
|------|-----------|---|------------------------------------|---|---|--|
| 保育課程 | 学修成果 | こどもの豊かな人間性を豊かにしている | こどもの心身の発達を支えるために必要な専門的知識や技能を習得している | 幅広い分野の知識・技能を基に、保育・教育の課題について、多面的な見方を考え出すことができる | 実践の場において自ら課題を見いだし研究することにより、保育や教育の質を高める態度 | |
| | | こどもの保育・教育に必要な倫理観をもって行動することができる | | 社会の要請に応じた保育・教育の課題について、思考、判断し、新たな価値を生み出すことができる | 教育・保育の諸問題について主体的に思考判断、表現し、実践の場で生かしている | |
| | | こどもの豊かな人間性を豊かにしている | | | | |
| | | こどもの保育・教育に必要な倫理観をもって行動することができる | | | | |
| 専門 | 学修成果 | こどもの豊かな人間性を豊かにしている | こどもの心身の発達を支えるために必要な専門的知識や技能を習得している | 幅広い分野の知識・技能を基に、保育・教育の課題について、多面的な見方を考え出すことができる | 実践の場において自ら課題を見いだし研究することにより、保育や教育の質を高める態度 | |
| | | こどもの保育・教育に必要な倫理観をもって行動することができる | | 社会の要請に応じた保育・教育の課題について、思考、判断し、新たな価値を生み出すことができる | 教育・保育の諸問題について主体的に思考判断、表現し、実践の場で生かしている | |
| | | こどもの豊かな人間性を豊かにしている | | | | |
| | | こどもの保育・教育に必要な倫理観をもって行動することができる | | | | |
| 分野 | 学修成果 | こどもの豊かな人間性を豊かにしている | こどもの心身の発達を支えるために必要な専門的知識や技能を習得している | 幅広い分野の知識・技能を基に、保育・教育の課題について、多面的な見方を考え出すことができる | 実践の場において自ら課題を見いだし研究することにより、保育や教育の質を高める態度 | |
| | | こどもの保育・教育に必要な倫理観をもって行動することができる | | 社会の要請に応じた保育・教育の課題について、思考、判断し、新たな価値を生み出すことができる | 教育・保育の諸問題について主体的に思考判断、表現し、実践の場で生かしている | |
| | | こどもの豊かな人間性を豊かにしている | | | | |
| | | こどもの保育・教育に必要な倫理観をもって行動することができる | | | | |
| 分野 | 学修成果 | こどもの豊かな人間性を豊かにしている | こどもの心身の発達を支えるために必要な専門的知識や技能を習得している | 幅広い分野の知識・技能を基に、保育・教育の課題について、多面的な見方を考え出すことができる | 実践の場において自ら課題を見いだし研究することにより、保育や教育の質を高める態度 | |
| | | こどもの保育・教育に必要な倫理観をもって行動することができる | | 社会の要請に応じた保育・教育の課題について、思考、判断し、新たな価値を生み出すことができる | 教育・保育の諸問題について主体的に思考判断、表現し、実践の場で生かしている | |
| | | こどもの豊かな人間性を豊かにしている | | | | |
| | | こどもの保育・教育に必要な倫理観をもって行動することができる | | | | |

MEMO

学科別履修要領／こども教育学科

| 区分 | 授業科目 | 授業形態 | 単位数 | | | 1年 | | 2年 | | 3年 | | 4年 | | 備考 |
|--------|---------|--------|---------|-------------|-------|-------|-------|--------|---------|-------------|-------|-------|-------|-------------------------|
| | | | 必修 | 選択 | 自由 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | |
| | | | | | | | | | | | | | | |
| 学目標 | まなぶる | と | と | と | と | と | と | と | と | と | と | と | | |
| 科目群 | 人間探究科目群 | 創造実践 | 基礎 | 基礎技能 | 基礎実習 | 基礎研究 | 保育・教育 | こどもの心と | 保護者への支援 | 保育・教育の内容と手法 | | | | |
| 基盤教育分野 | こども教育 | こども教育 | こども教育 | こども教育 | こども教育 | こども教育 | こども教育 | こども教育 | こども教育 | こども教育 | こども教育 | こども教育 | こども教育 | |
| 専門基礎分野 | 保育・教育 | こどもの心と | 保護者への支援 | 保育・教育の内容と手法 | | | | | | | | | | ①2単位以上選択必修 |
| 専門分野 | 保育・教育 | こどもの心と | 保護者への支援 | 保育・教育の内容と手法 | | | | | | | | | | ②2単位以上選択必修 |
| | | | | | | | | | | | | | | ④10単位以上選択必修(保育・幼児教育コース) |

MEMO

学科別履修要領／こども教育学科

II 履修上の注意事項

1. 保育士資格の取得

(1) 保育士資格を取得するには、卒業所要単位を修得し、かつ「児童福祉法施行規則第6条の2第1項第3号の指定保育士養成施設の修業教科目及び単位数並びに履修方法」(平成30年厚生労働省告示第216号)に定める次の教科目および単位数を最低修得しなければならない。

- 1) 教養科目 8単位以上(別表A「保育士資格教養科目」を精読のこと)
- 2) 専門科目(必修) 25教科目 61単位(別表B備考を精読のこと)
- 3) 専門科目(選択必修) 9単位以上(")
- 合 計 78単位以上

(2) 保育士資格取得に必要な単位を修得した者には、保育士登録申請にかかる所定の手続きを経たのち、都道府県知事から保育士証が交付される。

別表A 保育士資格教養科目

| 告示よる教科目 | | | | こども教育学科 開設している授業科目 | | 開設単位数 | | 保育士資格取得の ための最低単位数 |
|------------------|-----------------|----------|------------|-----------------------|--------------|-------|-----|-----------------------|
| 系列 | 教科目 | 授業 形態 | 指 定 単位数 | 授 業 科 目 | 授業形態 | 必 修 | 選 択 | |
| | | | | | | | | |
| 教 養 科 目 | 外国語、体育 以外の科目 | 不問 | 6以上 | まなぶる▶ときわびとI | 演習 | 2 | | 6単位 以上 選択 必修 |
| | | | | まなぶる▶ときわびとII | 演習 | 1 | | |
| | | | | 日 本 国 憲 法 | 講義 | | 2 | |
| | | | | 情 報 基 礎 | 演習 | | 1 | |
| | | | | 情 報 メ デ ィ ア 演 習 | 演習 | | 1 | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | 外国語 | 演習 | 2以上 | 英語コミュニケーションI | 演習 | | |
| | | | | 英語コミュニケーションII | 演習 | | 1 | |
| | 体 育 | 講義 | 1 | 健康スポーツ科学I | 講義 | | 1 | 取得必修 |
| | | 実技 | 1 | 健康スポーツ科学III | 実技 | | 1 | 取得必修 |
| | 合 計 | | 10単位以上 | 合 計 | | 3 | 8 | 8単位以上 |

別表B 保育士資格取得に必要な単位

| 系列 | 児童福祉法施行規則 告示別表第1による科目 | | 指 定 単位数 | こども教育学科で 開設している授業科目 | | 開設単位数 | | 保育士資格取得の ための単位数 | |
|--------------------|--------------------------|------|------------|------------------------|------|-------|-----|--------------------|-----|
| | 教 科 目 | 授業形態 | 必 修 | 授 業 科 目 | 授業形態 | 必 修 | 選 択 | 必 修 | 選 択 |
| 保育の本質・目的 に関する科目 | 保 育 原 理 | 講義 | 2 | 保 育 原 理 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | 教 育 原 理 | 講義 | 2 | 教 育 原 理 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | 子ども家庭福祉 | 講義 | 2 | 子ども家庭福祉 | 講義 | | 2 | 2 | |
| | 社 会 福 祉 | 講義 | 2 | 社 会 福 祉 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | 子ども家庭支援論 | 講義 | 2 | 子ども家庭支援論 | 講義 | | 2 | 2 | |
| | 社会的養護Ⅰ | 講義 | 2 | 社会的養護Ⅰ | 講義 | | 2 | 2 | |
| | 保 育 者 論 | 講義 | 2 | 保 育 者 論 | 講義 | | 2 | 2 | |
| 保育の対象の理解 に関する科目 | 保育の心理学 | 講義 | 2 | 保育の心理学 | 講義 | | 2 | 2 | |
| | 子ども家庭支援の心理学 | 講義 | 2 | 子ども家庭支援の心理学 | 講義 | | 2 | 2 | |
| | 子どもの理解と援助 | 演習 | 1 | 子どもの理解と援助 | 演習 | | 1 | 1 | |
| | 子どもの保健 | 講義 | 2 | 子どもの保健 | 講義 | | 2 | 2 | |
| | 子どもの食と栄養 | 演習 | 2 | 子どもの食と栄養Ⅰ | 演習 | | 1 | 1 | |
| | | | | 子どもの食と栄養Ⅱ | 演習 | | 1 | 1 | |
| 保育の内容・方法 に関する科目 | 保育の計画と評価 | 講義 | 2 | 保育の計画と評価 | 講義 | | 2 | 2 | |
| | 保育内容総論 | 演習 | 1 | 保育内容総論 | 演習 | | 1 | 1 | |
| | 保育内容演習 | 演習 | 5 | 保育内容（環 境） | 演習 | | 2 | 2 | |
| | | | | 保育内容（人間関係） | 演習 | | 2 | 2 | |
| | | | | 保育内容（健 康） | 演習 | | 2 | 2 | |
| | | | | 保育内容（言 葉） | 演習 | | 2 | 2 | |
| | | | | 保育内容（造形表現） | 演習 | | 2 | 2 | |
| | | | | 保育内容（音楽表現） | 演習 | | 2 | 2 | |
| | 保育内容の理解と方法 | 演習 | 4 | 子どもと造形表現 | 演習 | | 1 | 1 | |
| | | | | 子どもと音楽表現 | 演習 | | 1 | 1 | |
| | | | | 子どもと身体表現 | 演習 | | 1 | 1 | |
| | | | | 子どもと環境 | 演習 | | 2 | 2 | |
| | | | | 子どもと言葉 | 演習 | | 2 | 2 | |
| | 乳児保育Ⅰ | 講義 | 2 | 乳児保育Ⅰ | 講義 | | 2 | 2 | |
| | 乳児保育Ⅱ | 演習 | 1 | 乳児保育Ⅱ | 演習 | | 1 | 1 | |
| | 子どもの健康と安全 | 演習 | 1 | 子どもの健康と安全 | 演習 | | 1 | 1 | |
| 障害児保育 | 演習 | 2 | 障害児の理解と支援Ⅰ | 演習 | | 1 | 1 | | |
| | | | 障害児の理解と支援Ⅱ | 演習 | | 1 | 1 | | |
| 社会的養護Ⅱ | 演習 | 1 | 社会的養護Ⅱ | 演習 | | 1 | 1 | | |
| 子育て支援 | 演習 | 1 | 子育て支援 | 演習 | | 1 | 1 | | |
| 保育実習 | 保育実習Ⅰ | 実習 | 4 | 保育実習Ⅰ（保育所） | 実習 | | 2 | 2 | |
| | | | | 保育実習Ⅰ（社会福祉施設） | 実習 | | 2 | 2 | |
| | 保育実習指導Ⅰ | 演習 | 2 | 保育実習指導Ⅰ | 演習 | | 2 | 2 | |
| 総合演習 | 保育実践演習 | 演習 | 2 | 保育実践演習 | 演習 | | 2 | 2 | |
| 合 計 単 位 | | | 51 | 合 計 単 位 | | 6 | 55 | 61 | |

学科別履修要領／こども教育学科

| 系 列 | 児童福祉法施行規則 告示別表第2による科目 | | 指 定 単位数 | こども教育学科で 開設している授業科目 | | 開設単位数 | | 保育士資格取得の ための単位数 | | | |
|--|--------------------------|------|------------------|------------------------|---------|-------|-----|--------------------|---|-----|---|
| | 教 科 目 | 授業形態 | | 選 択 必 修 | 授 業 科 目 | 授業形態 | 必 修 | 選 択 | 必 修 | 選 択 | |
| 科目 目的に関する 保育の本質・ 科目 理解に関する 保育の対象の 科目 方法に関する 保育の内容・ 保育実習 | | | 単 位 以 上 | 子どもの歯と健康 | 講義 | | 2 | | 6 単 位 以 上 選 択 必 修 | | |
| | | | | 子どもの障害と医療 | 講義 | | 2 | | | | |
| | | | | 発達心理学 | 講義 | | 2 | | | | |
| | 教育心理学 | 講義 | | 2 | | | | | | | |
| | カウンセリングの技法 | 演習 | | | 1 | | | | | | |
| | 幼児理解 | 講義 | | | 2 | | | | | | |
| | 教育相談 | 講義 | | | 2 | | | | | | |
| | あそびのリスクマネジメント | 講義 | | | 2 | | | | | | |
| | 保育指導法 | 演習 | | | 1 | | | | | | |
| | 多文化理解教育論 | 講義 | | | 2 | | | | | | |
| | 保育・教育メソッド | 演習 | | | 1 | | | | | | |
| | 音楽Ⅳ | 演習 | | | 1 | | | | | | |
| | 保育実習Ⅱ 又は保育実習Ⅲ | 実習 | | 2 | 保育実習Ⅱ | 実習 | | 2 | | | 3 単 位 以 上 選 択 必 修 |
| | | | | | 保育実習Ⅲ | 実習 | | 2 | | | |
| | 保育実習指導Ⅱ 又は保育実習指導Ⅲ | 演習 | | 1 | 保育実習指導Ⅱ | 演習 | | 1 | | | |
| 保育実習指導Ⅲ | | | 演習 | | | 1 | | | | | |
| 合 計 単 位 | 18 単位以上 | | 合 計 単 位 | | | 2 | 26 | 9 単位 以 上 | | | |

- (備考) 1. 保育士資格取得のために必要な単位は、学則第35条別表第1に定める卒業必修科目21単位と選択科目103単位以上を含め、124単位以上の卒業要件を満たし、別表Bの「保育士資格取得のための最低単位数」合計61単位を修得しなければならない。
2. 同じく、告示別表第2の専門科目(選択必修)については、保育実習は3単位以上、その他については6単位以上、合計9単位以上を修得しなければならない。
3. 別表Bは、「児童福祉法施行規則(昭和23年厚生省令第11号)第6条の2第1項第3号の指定保育士養成施設の修業教科科目及び単位数並びに履修方法」に定められている。
(一部改正平成30年厚生労働省告示第216号)

2. 幼稚園教諭一種免許状の取得

(1) 幼稚園教諭一種免許状を取得するには、卒業所要単位を修得することが「基礎資格」であり、基礎教養科目にはついては、「教育職員免許法施行規則第66条の6」に定める別表Cの科目を8単位修得しなければならない。

また、別表Dに示す必修科目16単位と選択必修科目6単位及び、別表Eに示す必修科目24単位並びに、別表Fに示す必修科目6単位、合計52単位以上を修得しなければならない。

(2) 幼稚園教諭一種免許状取得に必要な単位を修得した者には、免許状申請にかかる所定の手続きを経たのち、兵庫県教育委員会から免許状が授与される。

別表 C 幼稚園教諭一種免許状取得に必要な単位

| 教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目 | | | | |
|--|-------|--------------------------|-------|----|
| 免許法施行規則に定める科目 | 単 位 数 | こども教育学科で 開設している授業科目 | 修得単位数 | |
| | | | 必修 | 選択 |
| 日 本 国 憲 法 | 2 | 日 本 国 憲 法 | 2 | |
| 体 育 | 2 | 健 康 ス ポ ー ツ 科 学 I | 1 | |
| | | 健 康 ス ポ ー ツ 科 学 III | 1 | |
| 外 国 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン | 2 | 英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン I | 1 | |
| | | 英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン II | 1 | |
| 数 理、 デ ー タ 活 用 及 び 人 工 知 能 に 関 す る 科 目 又 は 情 報 機 器 の 操 作 | 2 | 情 報 基 礎 | 1 | |
| | | 情 報 メ デ ィ ア 演 習 | 1 | |
| 合 計 | 8 | 合 計 | 8 | |

別表 D 幼稚園教諭一種免許状取得に必要な単位

| 免許法施行規則に定める科目区分等 | | こども教育学科で 開設している授業科目 | 修得単位数 | | 備 考 |
|-------------------------------------|--------------------------------------|------------------------|----------------|----|-----------------------|
| 科 目 | 各科目に含めることが 必要な事項 | | 必修 | 選択 | |
| 領 域 及 び 保 育 内 容 の 指 導 法 に 関 す る 科 目 | 領 域 に 関 す る 専 門 的 事 項 | 健 康 | 子 ども と 健 康 | 2 | これらより 4 単位 選択必修 |
| | | 人 間 関 係 | 子 ども と 人 間 関 係 | 2 | |
| | | 環 境 | 子 ども と 環 境 | 2 | |
| | | 言 葉 | 子 ども と 言 葉 | 2 | |
| | | 表 現 | 子 ども と 造 形 表 現 | 1 | これらより 2 単位 選択必修 |
| | 子 ども と 音 楽 表 現 | | 1 | | |
| | 子 ども と 身 体 表 現 | | 1 | | |
| | 保 育 内 容 の 指 導 法 (情報機器及び教材の活用を含む。) | 保 育 内 容 総 論 | 1 | | |
| | | 保 育 指 導 法 | 1 | | |
| | | 保 育 内 容 (健 康) | 2 | | |
| | | 保 育 内 容 (人 間 関 係) | 2 | | |
| | | 保 育 内 容 (環 境) | 2 | | |
| | | 保 育 内 容 (言 葉) | 2 | | |
| 保 育 内 容 (造 形 表 現) | | 2 | | | |
| 保 育 内 容 (音 楽 表 現) | 2 | | | | |

学科別履修要領／こども教育学科

別表 E 幼稚園教諭一種免許状取得に必要な単位

| 免許法施行規則に定める科目区分等 | | こども教育学科で 開設している授業科目 | 修得単位数 | | 備 考 |
|-------------------------------------|---|------------------------------|-------|----|-----|
| 科 目 | 各科目に含めることが 必要な事項 | | 必修 | 選択 | |
| 教育の基礎的 理解に関 する科目 | 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 | 教 育 原 理 | 2 | | |
| | | 教育の思想と歴史 | | 2 | |
| | 教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。） | 保 育 者 論 | 2 | | |
| | 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。） | 教 育 行 政 学 | 2 | | |
| | 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 | 教 育 心 理 学 | 2 | | |
| | 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解 | 特 別 支 援 教 育 | 1 | | |
| 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 | 教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。） | 教 育 方 法 ・ 情 報 通 信 技 術 活 用 論 | 2 | | |
| | 幼児理解の理論及び方法 | 幼 児 理 解 | 2 | | |
| | 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法 | 教 育 相 談 | 2 | | |
| | | カウンセリングの技法 | | 1 | |
| 教育実践に関する科目 | 教育実習 | 教育実習指導（幼稚園） | 1 | | |
| | | 教育実習（幼稚園） | 4 | | |
| | 学校体験活動 | | | | |
| | 教職実践演習 | 教 職 実 践 演 習 （ 幼 ・ 小 ・ 中 ） | 2 | | |

別表 F 幼稚園教諭一種免許状取得に必要な単位

| 免許法施行規則に定める科目区分 | こども教育学科で 開設している授業科目 | 修得単位数 | | 備 考 |
|-----------------|------------------------|-------|----|-----|
| | | 必修 | 選択 | |
| 大学が独自に設定する科目 | インターシップ B | | 2 | |
| | 音 楽 IV | | 1 | |
| | 音 楽 I | 1 | | |
| | 音 楽 II | 1 | | |
| | 音 楽 III | 1 | | |
| | 図 画 工 作 I | 1 | | |
| | 図 画 工 作 II | 1 | | |
| | 体 育 | 1 | | |

3. 小学校教諭一種免許状の取得

(1) 小学校教諭一種免許状を取得するには、卒業所要単位を修得することが「基礎資格」であり、基礎教養科目については、「教育職員免許法施行規則第66条の6」に定める別表Gの科目を8単位修得しなければならない。

また、別表Hに示す必修科目30単位と選択必修3単位、別表Iに示す必修科目30単位、別表Jに示す必修科目6単位、合計69単位以上を修得しなければならない。

(2) 小学校教諭一種免許状取得に必要な単位を修得した者には、免許状申請にかかる所定の手続きを経たのち、兵庫県教育委員会から免許状が授与される。

別表 G 小学校教諭一種免許状取得に必要な単位

| 教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目 | | | | |
|-------------------------------|-------|--------------------------|-------|----|
| 免許法施行規則に定める科目 | 単 位 数 | こども教育学科で開設している授業科目 | 修得単位数 | |
| | | | 必修 | 選択 |
| 日 本 国 憲 法 | 2 | 日 本 国 憲 法 | 2 | |
| 体 育 | 2 | 健 康 ス ポ ー ツ 科 学 I | 1 | |
| | | 健 康 ス ポ ー ツ 科 学 III | 1 | |
| 外国語コミュニケーション | 2 | 英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン I | 1 | |
| | | 英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン II | 1 | |
| 数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作 | 2 | 情 報 基 礎 | 1 | |
| | | 情 報 メ デ ィ ア 演 習 | 1 | |
| 合 計 | 8 | 合 計 | 8 | |

別表 H 小学校教諭一種免許状取得に必要な単位

| 免許法施行規則に定める科目区分等 | | こども教育学科で開設している授業科目 | 修得単位数 | | 備 考 |
|-------------------|---------------------|--------------------|-------------------------|----|------------------------|
| 科 目 | 各科目に含めることが必要な事項 | | 必修 | 選択 | |
| 教科及び教科の指導法のに関する科目 | 教科に関する専門的事項 | 国 語 (書写を含む。) | 国 語 | 2 | ① 2単位選択必修 ② 1単位選択必修 |
| | | 社 会 | 社 会 | 2 | |
| | | 算 数 | 算 数 | 2 | |
| | | 理 科 | 理 科 概 論 | 2 | |
| | | | サイエンス・コミュニケーション | 2 | |
| | | 生 活 | 生 活 | 2 | |
| | | 家 庭 | 家 庭 | 2 | |
| | | 音 楽 | 小 学 校 音 楽 | 1 | |
| | | 図 画 工 作 | 小 学 校 図 画 工 作 | 1 | |
| | | 体 育 | 小 学 校 体 育 | 1 | |
| 外 国 語 | 小 学 校 英 語 | 2 | | | |
| 信各技術の指導法を(情報含む) | 信各技術の指導法を(情報含む) | 国 語 (書写を含む。) | 教 科 指 導 法 (国 語) | 2 | |
| | | 社 会 | 教 科 指 導 法 (社 会) | 2 | |
| | | 算 数 | 教 科 指 導 法 (算 数) | 2 | |
| | | 理 科 | 教 科 指 導 法 (小 中 学 理 科) | 2 | |
| | | 生 活 | 教 科 指 導 法 (生 活) | 2 | |
| | | 音 楽 | 教 科 指 導 法 (音 楽) | 2 | |
| | | 図 画 工 作 | 教 科 指 導 法 (図 画 工 作) | 2 | |
| | | 家 庭 | 教 科 指 導 法 (家 庭) | 2 | |
| | | 体 育 | 教 科 指 導 法 (体 育) | 2 | |
| 外 国 語 | 教 科 指 導 法 (外 国 語) | 2 | | | |

学科別履修要領／こども教育学科

別表Ⅰ 小学校教諭一種免許状取得に必要な単位

| 免許法施行規則に定める科目区分等 | | こども教育学科で 開設している授業科目 | 修得単位数 | | 備 考 |
|-------------------------------------|---|------------------------------|-------|----|---|
| 科 目 | 各科目に含めることが必要な事項 | | 必修 | 選択 | |
| 教育の基礎的理解に関する科目 | 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 | 教 育 原 理 | 2 | | |
| | | 教 育 の 思 想 と 歴 史 | | 2 | |
| | 教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。） | 教 職 論 | 2 | | |
| | 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。） | 教 育 行 政 学 | 2 | | |
| | 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 | 教 育 心 理 学 | 2 | | |
| | 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解 | 特 別 支 援 教 育 | 1 | | |
| | 教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。） | 教 育 課 程 総 論 | 2 | | |
| 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 | 道徳の理論及び指導法 | 道徳教育の理論と実践 | 2 | | 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法を含む |
| | 総合的な学習の時間の指導法 | 総合的な学習の時間の指導法 | 2 | | |
| | 特別活動の指導法 | 特別活動の指導法 | 2 | | |
| | 教育の方法及び技術 | 教育方法・情報通信技術活用論 | 2 | | |
| | 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法 | | | | |
| | 生徒指導の理論及び方法 | 生徒・進路指導論 | 2 | | |
| | 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法 | 教 育 相 談 | 2 | | |
| カウンセリングの技法 | | | 1 | | |
| 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法 | | | | | |
| 教育実践に関する科目 | 教育実習 | 教育実習指導（義務教育） | 1 | | |
| | | 教育実習（義務教育） | 4 | | |
| | 学校体験活動 | | | | |
| | 教職実践演習 | 教 職 実 践 演 習 (幼 ・ 小 ・ 中) | 2 | | |

別表Ⅱ 小学校教諭一種免許状取得に必要な単位

| 免許法施行規則に定める科目区分 | こども教育学科で 開設している授業科目 | 修得単位数 | | 備 考 |
|-----------------|------------------------|-------|----|-----|
| | | 必修 | 選択 | |
| 大学が独自に設定する科目 | 介 護 等 体 験 | 1 | | |
| | イ ン タ ー ン シ ッ プ A | | 1 | |
| | イ ン タ ー ン シ ッ プ B | | 2 | |
| | 音 楽 I | 1 | | |
| | 音 楽 II | 1 | | |
| | 図 画 工 作 I | 1 | | |
| | 図 画 工 作 II | 1 | | |
| | 体 育 | 1 | | |

4. 中学校教諭一種免許状（理科）の取得

(1) 中学校教諭一種免許状（理科）を取得するには、卒業所要単位を修得することが「基礎資格」であり、基礎教養科目については、「教育職員免許法施行規則第66条の6」に定める別表Gの科目を8単位修得しなければならない。

また、別表Lに示す必修科目20単位と選択必修9単位、別表Mに示す必修科目30単位、合計59単位以上を修得しなければならない。

なお、「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律施行規則」により、「介護等体験」を行わなければならない。

(2) 中学校教諭一種免許状（理科）取得に必要な単位を修得した者には、免許状申請にかかる所定の手続きを経たのち、兵庫県教育委員会から免許状が授与される。

別表L 中学校教諭一種免許状（理科）に必要な単位

| 免許法施行規則に定める科目区分等 | | こども教育学科で開設している授業科目 | 修得単位数 | | 備考 |
|--------------------------|----------------------|---------------------|-----------|----|--------------|
| | | | 必修 | 選択 | |
| 教科及び教科に関する指導法に関する専門的事項 | 物 理 学 | 物 理 学 概 論 | 2 | | これらより9単位選択必修 |
| | | 生 活 と 物 理 | | 2 | |
| | | 物 理 学 特 論 | | 2 | |
| | | 物理学実験（コンピュータ活用を含む。） | 物 理 学 実 験 | 1 | |
| | 化 学 | 化 学 概 論 | 2 | | |
| | | 生 活 と 化 学 | | 2 | |
| | | 化 学 特 論 | | 2 | |
| | 化学実験（コンピュータ活用を含む。） | 化 学 実 験 | 1 | | |
| | 生 物 学 | 生 物 学 概 論 | 2 | | |
| | | 生 物 と 環 境 | | 2 | |
| | | 生 物 学 特 論 | | 2 | |
| | | 生物学実験（コンピュータ活用を含む。） | 生 物 学 実 験 | 1 | |
| | 野外生物学実習 | | 1 | | |
| | 地 学 | 地 学 概 論 | 2 | | |
| | | 地 球 と 環 境 | | 2 | |
| | | 地 学 特 論 | | 2 | |
| 地学実験（コンピュータ活用を含む。） | | 地 学 実 験 | 1 | | |
| 教科及び教科の指導法に関する科目 | 理 科 概 論 | | 2 | | |
| | 理 科 実 験 指 導 法 | | 2 | | |
| | サイエンス・コミュニケーション | | 2 | | |
| 各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） | 教 科 指 導 法（小 中 学 理 科） | 2 | | | |
| | 教 科 指 導 法（中 学 理 科）Ⅰ | 2 | | | |
| | 教 科 指 導 法（中 学 理 科）Ⅱ | 2 | | | |
| | 教 科 指 導 法（中 学 理 科）Ⅲ | 2 | | | |

学科別履修要領／こども教育学科

別表 M 中学校教諭一種免許状（理科）に必要な単位

| 免許法施行規則に定める科目区分等 | | こども教育学科で 開設している授業科目 | 修得単位数 | | 備 考 |
|------------------------------|---|------------------------------|-------|----|---|
| 科 目 | 各科目に含めることが必要な事項 | | 必修 | 選択 | |
| 教育の基礎的理解に関する科目 | 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 | 教 育 原 理 | 2 | | |
| | | 教 育 の 思 想 と 歴 史 | | 2 | |
| | 教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。） | 教 職 論 | 2 | | |
| | 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。） | 教 育 行 政 学 | 2 | | |
| | 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 | 教 育 心 理 学 | 2 | | |
| | 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解 | 特 別 支 援 教 育 | 1 | | |
| | 教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。） | 教 育 課 程 総 論 | 2 | | |
| 道徳、総合的な学習の時間等の指導、教育相談等に関する科目 | 道徳の理論及び指導法 | 道徳教育の理論と実践 | 2 | | 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法を含む |
| | 総合的な学習の時間の指導法 | 総 合 的 な 学 習 の 時 間 の 指 導 法 | 2 | | |
| | 特別活動の指導法 | 特 別 活 動 の 指 導 法 | 2 | | |
| | 教育の方法及び技術 | 教 育 方 法 ・ 情 報 通 信 技 術 活 用 論 | 2 | | |
| | 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法 | | | | |
| | 生徒指導の理論及び方法 | 生 徒 ・ 進 路 指 導 論 | 2 | | |
| | 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法 | 教 育 相 談 | 2 | | |
| 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法 | カウニングの技法 | | 1 | | |
| 教育実践に関する科目 | 教育実習 | 教育実習指導（義務教育） | 1 | | |
| | | 教育実習（義務教育） | 4 | | |
| | 学校体験活動 | | | | |
| | 教職実践演習 | 教 職 実 践 演 習 (幼 ・ 小 ・ 中) | 2 | | |

5. 学校図書館司書教諭資格

学校図書館司書教諭資格は、小学校や中学校の学校図書館において、司書または教諭として働くために必要な資格である。

この資格を取得するには、教員免許を持っていることが前提条件である。その上で、学校図書館の運営に必要な知識や技術、教育現場での役割などを学び、所定の単位を修得することが必要である。

- ・「学校経営と学校図書館（講義）」
- ・「学校図書館メディアの構成（講義）」
- ・「学習指導と学校図書館（講義）」
- ・「読書と豊かな人間性（講義）」
- ・「情報メディアの活用（講義）」

計5科目修得

6. 社会福祉主事任用資格の取得

社会福祉主事任用資格とは、地方自治体の福祉事務所、あるいは社会福祉施設職員等の採用に際して求められる基礎資格で、採用されると「任用」がとれ、社会福祉主事となる。

本学科では、卒業要件を満たすことにより、社会福祉主事任用資格が取得できる。

【神戸常盤大学こども教育学科で取得できるその他の資格】

I. 認定絵本士（保育・幼児教育コースのみ）

絵本専門士委員会（事務局：国立青少年教育振興機構）が大学等と連携し、『認定絵本士』を養成する認定絵本士養成制度がある。『認定絵本士』とは、絵本に関する知識、技能および感性を備えた絵本の専門家である。『認定絵本士』資格を取得するには、本学が認定絵本士養成講座として開設する「子どもと絵本Ⅰ」及び「子どもと絵本Ⅱ」（合計30科目（コマ））の2科目の単位修得が必要である。『認定絵本士』資格を取得後、実践活動を経て所定の審査を受けることにより、さらに高度な専門性を有する『絵本専門士』の資格取得をめざすことができる。

- * 「子どもと絵本Ⅰ」及び「子どもと絵本Ⅱ」の2科目の単位認定には、8割以上の出席が必要であるため、注意すること。
 - * 本学では認定絵本士に係る科目は3年次より履修できる。
 - * 定員は50名とする。
- ただし、令和3年度及び令和4年度入学生は「自由科目」として履修するため、卒業所要単位には含めないので注意すること。

次の科目の単位修得により、絵本専門士委員会が認定する。

- ・「子どもと絵本Ⅰ（講義）」
- ・「子どもと絵本Ⅱ（講義）」

計2科目修得

II. リトミック指導者（音楽による指導法）（保育・幼児教育コースのみ）

エミール・ジャック＝ダルクローズが創設した、音楽基礎教育の具体的な実践教育である『リトミック』を指導するための資格。「リトミックⅠ」、「リトミックⅡ」を受講し、かつ認定試験に合格することにより取得可能となる。

- * 定員は原則30名とする。
- * リトミックⅡを履修する場合は、リトミックⅠを修得済みであること。
- * リトミック研究センターの認定試験を受験する。（受験費用各自負担）

次の各科目の単位修得に加えて、本学で別途実施する認定試験の合格により、リトミック研究センターが認定する。

- ・「リトミックⅠ（演習）」 「幼稚園・保育園のためのリトミック指導資格2級」
- ・「リトミックⅡ（演習）」 「幼稚園・保育園のためのリトミック指導資格1級」

III. ピアヘルパー

ピアヘルパーとは、青年や学生なら誰でも遭遇する問題の相談相手になる、あるいはピア（仲間）グループの世話役をつとめる者を指す。カウンセリングや関連する心理学の理論方法について学習し、教育・福祉・保育などの実際場面で人とかかわるために必要な基本的な力を身につけた者であることを証明する資格。

＊認定試験は授業とは別に実施する。（本学で毎年実施、受験費用各自負担）

＊認定試験の受験は「カウンセリングの技法（演習）」修得後であれば、他の科目は修得見込でも可。

次の科目の単位修得に加えて、本学で別途実施する資格認定試験の合格により、日本教育カウンセラー協会が認定する。

- ・「教育心理学（講義）」
- ・「教育相談（講義）」
- ・「カウンセリングの技法（演習）」

計3科目修得

IV. 地域防災スペシャリスト（学科独自資格）

保育・教育の現場、家庭、地域の中で、子どもが安全に活動できるよう、環境を注意深く観察する力や、子どもが災害から自分自身を守るすべを身につけられるよう指導する力を修得したことを認定する資格。

次の科目の単位修得により、学科として認定する。

- ・「プロジェクトデザイン（演習）」
- ・「防災教育実践（演習）」
- ・「あそびのリスクマネジメント（講義）」、「保育・教育多職種連携論（講義）」のいずれか1科目を選択
- ・「安全学（講義）」、「教育と人間（講義）」、「災害とまちづくり（講義）」のいずれか1科目を選択

計4科目修得

V. チャイルドヘルスサポーター（学科独自資格）

子どもの健康に気配りでき、病気や体の異変への対処や、治療中・予後の子どもに対応する力を修得したことを認定する資格。

次の科目の単位修得により、学科として認定する。

A：以下の6科目の中から3科目選択

- ・「いのちと共生（講義）」
- ・「人類と地球環境（講義）」
- ・「人体のふしぎ（講義）」
- ・「安全学（講義）」
- ・「生命と倫理（講義）」
- ・「心理臨床学（講義）」

B：以下の4科目の中から3科目選択

- ・「子どもの歯と健康（講義）」
- ・「保育・教育と医療（講義）」
- ・「子どもの障害と医療（講義）」
- ・「あそびのリスクマネジメント（講義）」

A + B：計6科目修得